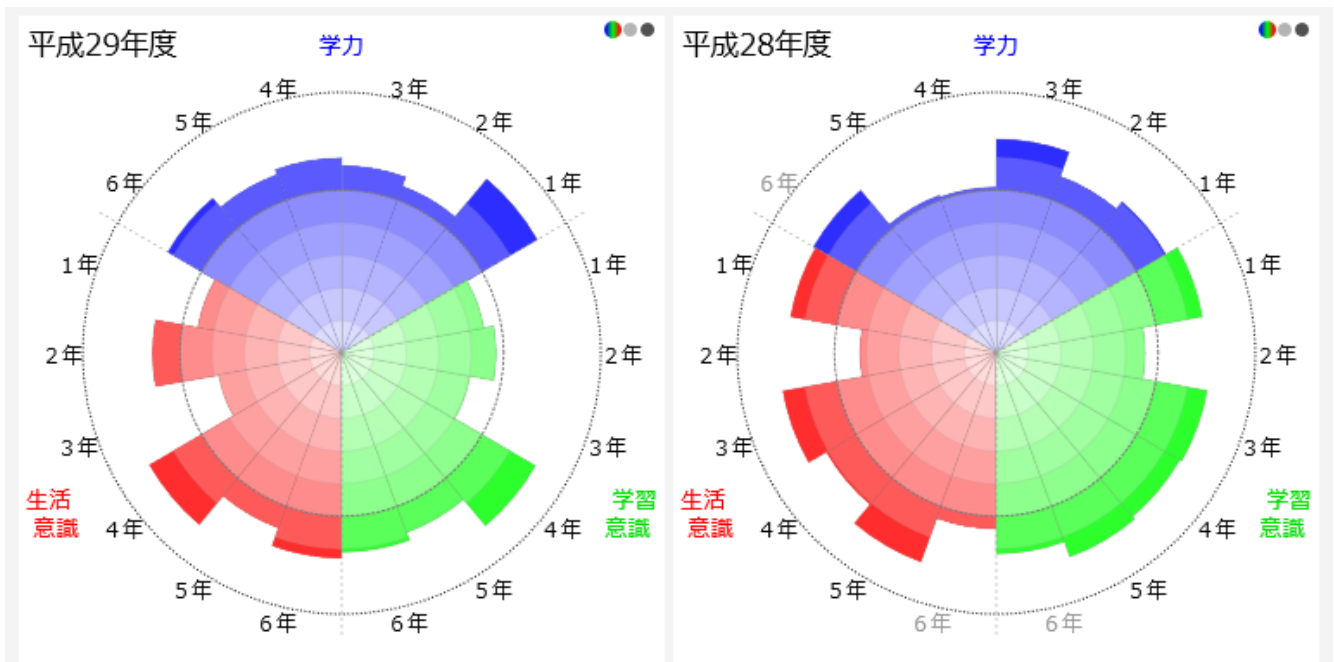


1 今年度の方針（中期学校経営方針より）

学力向上に関する指導の目標・方針

- 「伝え合い、学び合い」を軸にした授業作りを推進していく。
- 基礎的な技能の習得をめざし、朝の学習時間帯等を活用したスキル学習や個に応じた支援に取り組む。
- 児童が自分の考えをもち、主体的に学べるよう、生活科・社会科を中心に交流場を設定し、課題を追究したり解決したりする活動を充実させる。

2 横浜市学力学習状況調査からの平成29年度の実態調査



(1) 学力の概要

全体的にはどの学年も横浜市の平均を上回る学力である。学習・生活意識については学年によってばらつきがある。児童一人ひとりがより学ぶ意欲をもてる授業づくりを研究し、意欲が学力につながる指導を実践する必要がある。

(2) 学力・学習意識・生活意識の状況

〈2年〉

全体的には市平均を上回っているが、算数の学習意識の「算数の授業で勉強したことを生活の中で使おうとしていますか。」の意識が低い。今年度は、学習課題を自分たちの身近な問題にするなど、自分たちの生活と算数が密着したものであることを意識させる授業を行っていく。

〈3年〉

国語も算数も、全体的に見ると市の平均を上回っているが、学習に対する意識が低いことがデータから読み取れる。特に算数では、「算数の勉強は好きですか」「算数の勉強は大切ですか」という問いかけに対しては、とりわけ意識が低かった。今年度は、基礎基本の学力の定着を図るとともに、意欲を高めるためにより身近な学習課題を設定して、子どもたちが必要感を持てる授業づくりに取り組んでいく。

〈4年〉

全教科とも市平均を上回っている。学習に対する意識が全体的に低い。算数の学習意識では、「算数科の授業では、自分の考えを数や式、言葉で説明しようとしていますか。」の意識が低かった。今年度は、基礎基本を大切にしながら、計算の仕方などを自分の言葉で表現する場を意図的に設定する授業を行っていく。

〈5年〉

全教科とも市平均を上回っている。全体的によくできているが、理科の思考・表現の力が多少劣っている。理科の思考・表現の力を伸ばすために、今年度は、理科では、身近な問題から児童の問題意識を高めるような工夫をし、自ら次時の課題を作って解決していく授業を行っていく。

〈6年〉

全教科とも市平均を上回っている。学習に対する意識も全体的に高い。今年度は、さらに子どもたちの理科の学習意欲を高めるために、分かったと実感できる授業を行うことで、より理科好きの児童を育てていく。

(3) 経年変化の状況の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

学校全体としては、この一年で学力はほぼ変わっていない。学習意識調査では、生活・学習ともに、意識が高まっている。

学習したことを日常生活に活用する場面を十分に位置づけ、学習の有用性を実感させていく必要がある。

3 平成30年度 目標と具体的方策

目標 進んで考えを伝え合う子を育成する。

<具体的方策>

ア 日々の授業の充実を図る

- 「横浜市学力・学習状況調査」の結果から、各教科・領域で以下のことに重点的に取り組む。
 - ・言語活動を日々の授業に積極的に取り入れることで、実生活に生きる力を育てていく。
 - ・重点研究を生活科・社会科として、「進んで考えを伝え合う子の育成」ができるよう授業の質的改善を行う。
 - ・学習過程において自分の思いや考えをもつための支援や、自分の思いや考えを豊かに伝えるための支援、目的や意図をもって交流し、お互いの考えを深めるための支援を行う。
 - ・出前授業を多く取り入れ、体験的な学習を通して実感の伴った理解を得られるようにする。
- 学年研究部の充実
 - ・同学年の教員が共に教材研究を行うことで、学習進度をそろえたり、授業内容の充実につなげたりする。

イ 個に応じた指導

- 補充的・基礎的・発展的指導内容の取り組み
 - ・「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による学力向上を目指す。
- 特別支援教育の充実
 - ・特別支援教育委員会を定期的に関き、学校全体の児童の実態の把握、理解に努める。また、個別の支援を行い、個に寄り添った指導ができるようにする。
- 学習スタイル
 - ・意欲的に学習に取り組めるように一人ひとりの学習課題を大切に、課題解決型の学習の展開を心がける。